



少年センターだより

令和8年1・2月号 (第440号)



毎月1日「少年の日」 ☆育て少年心豊かにたくましく!第3日曜日「家庭の日」 ☆咲かせよう明るい会話, 家族の輪

「こども まんなか」を考える～ココロねっこ運動研修会より～

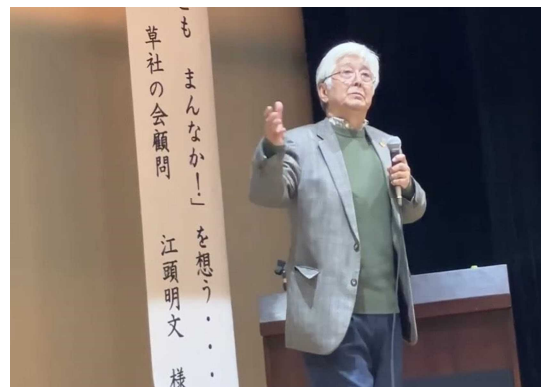
11月21日(金曜日)、青少年健全育成連絡協議会、少年補導委員連絡協議会、保護司会、PTA 連合会、小中高校の先生方など、総勢124名の皆さまにご参加いただき、「ココロねっこ運動」研修会を開催しました。

はじめに、長崎県青少年育成県民会議の宮本事務局長から「ココロねっこ運動」の趣旨や取り組み内容についてご説明いただきました。続いて、長崎県社会教育支援「草社の会」顧問の江頭明文氏が、『「こども まんなか!」を想う...』をテーマにご自身の実践事例を交えてお話しくださいました。

江頭氏は、子どもの問題行動だけを見て、責任を問うのではなく、その背景や育った環境を理解することの重要性を説かれました。また、子どもを中心に据えながら、大人がどのように関わり、支えていくべきかを考えさせられる内容でした。

また、子ども達の健全な成長を願う多くの組織で、後継者不足や一人あたりの負担増加といった現状にも触れ、持続可能な組織づくりの必要性についても示唆をいただきました。

私は4月から少年センターで勤務していますが、地域の方でご自身のお仕事をしながら子ども達の健全育成に尽力されている方がこれほど多くいらっしゃることを知り、大変感銘を受けました。複数の団体に所属し、重役を兼務しながら活動されている方も少なくありません。働き方改革が叫ばれる中、本当に頭が下がる思いです。江頭氏が講演で話されたように、どの団体も人材不足や後継者不足という課題を抱えています。子ども達をまんなかに置き、持続可能な活動を続けていくためには、連携・協働を一層進めていく必要があると改めて考えさせられました。私自身も少年センターの職員として、また地域の一員として、子どもたちの健全な成長のために何ができるかをしっかり考え、子どもたちの未来を支える取り組みをこれからも続けていきたいと思えます。今後も皆さまとともに、地域の子どもたちを見守り、支える活動に取り組んでまいります。



こどもまんなか月間

「秋のこどもまんなか月間」はこどもや子育て世帯を社会全体で支える気運をさらに醸成するために定められました。少年センター、各地区・小校区健全協の方々の協力のもと、様々な取り組みが行われましたので、その一部をご紹介します。

コミュニティスクールinふれ愛フェスティバル【富の原小校区健全協】	11月8日
くろもんまつり【大村小校区健全協】	11月8日
ウォークラリー【中央小校区健全協】	11月9日
メディア安全指導【鈴田小学校】	11月14日
ウォークラリー【福重小校区健全協】	11月15日
おくんち(相撲・神楽)【松原地区健全協】	11月16日
自転車施錠調査・白ポスト回収	11月17日
社会環境実態(立入)調査	11月20日
メディア安全指導【松原小学校】	11月21日
ココロねっこ運動研修会	11月21日
家族ウォークラリー【大村小校区健全協】	11月22日
池田湖畔マラソン大会【西大村小校区健全協】	11月29日



子どもを見守る少年補導委員の取り組み

青少年の健全育成と非行防止を願い、各地区・小学校区健全育成協議会や小中学校 PTA、小中高校の先生方、そして少年センターから推薦された71名の方々が、『大村市少年補導委員』として毎月2回の定期補導や、祭りなどの特別補導を行っています。

今回は、小中学生向けに少年補導委員の活動内容を紹介する広報紙を作成しました。ぜひ大村市ホームページから閲覧ください。「大村市 少年補導委員」で検索しても、ご覧いただけます。



市ホームページ二次元コード



< 連載コラム >

大昔の失敗話です。後輩の先生たちと飲む機会がありました。一人の先生が「異動先の学校になじめず、毎日がきついと」と話してきました。自分は励ますつもりで、「以前の先生はそんな弱音ははかず、がんばったタイ」と鼓舞し続けました。時に具体的な方法や心構えなども先輩風を吹かせて、語っていたように思えます。いつの間にかその先生は退席していました。その後、同席した先生が「角野先生、彼女が今ほしかった言葉は頑張れではなかったのではないですか?」と言ってきました。はっと気づかされました。

今なら深くわかります。きっとあの先生は聞いてもらえるだけでよかったのです。痛みを知ってほしかっただけだと思います。もう少し、自分で折り合いがつかないなら、アドバイスも聞けるのでしょうか、それ以前の問題、共感してくれるだけでよかったのだと思います。ちなみに、それから数年後、その先生と答え合わせは済んでいます。まったくその通りだったそうです。改めて謝罪したとともに、それ以来「共感」という言葉を聞くと、この出来事を思い出します。

話変わって、私のおふくろは90歳手前ですが、千客万来、いろいろな人が遊びに来ます。スマホを駆使して毎日のように誰かと話しています。時にはシニアカーに乗って、近所に遊びにも行っています。以前、なぜおふくろは話し相手が多いのだろうと考えたことがありました。答えの一つは聞く姿勢です。そうね、そうねとうなづいたり、そうかもねと相槌を打ったりしながら楽しそうに話をしています。共感の姿勢が相手に伝わるから、相手はまた話をしたいと思うのではないかと分析しています。話したがりの自分はまだ修行が足りません。

相手と話す行為は、人と人を繋ぐことも離すこともします。会話や対話は人との関わりの中でも大切なところです。共感の姿勢をもち、相手の話をしっかり聞く人になりたいなあ。年頭にあたり、今年のコピーにしたいと思います。新年早々、失敗話で恐縮ですが、今年も身を切りながら、七転八倒していきます。皆様、本年もよろしく願います。



青少年に関する相談は少年センター(月～金 8:30～17:15)へ
☆相談電話(ヤングテレフォン)0957-49-5263
☆Eメール相談 : kiitekudasai@city.omura.nagasaki.jp